

# あすへ 3.11 掲示板

情報をお寄せください

東日本大震災の被災者支援に関する情報を募集しています。  
(住所、氏名、電話番号を明記してください)  
河北新報社報道部 ファクス 022 (211) 1256  
メール asuhe@po.kahoku.co.jp

## 支援・催し

●赤い羽根「住民支え合い活動助成」第9次募集 宮城県共同募金会は、被災地などで活動する団体に助成する「住民支え合い活動助成」を受けたい希望団体を募っている。

対象は宮城県内で活動し、県民5人以上で構成する県内の非営利団体。住民団体やボランティアグループ、NPO法人などを含む。対象となる活動は、引っ越し手伝いなどの生活支援や被災者向けのサロン、健康相談、仮設住宅での季節行事や住民交流行事など。

助成金額は1団体1回につき上限10万円で、年2回まで申請できる。選考の上、9月下旬に助成する団体を決める。

希望する団体は宮城県共同募金会のホームページから「応募書」をダウンロードし、必要書類を添え、活動先または居住地の市町村共同募金委員会へ郵送する。締め切りは30日(必着)。連絡先は宮城県共同募金会022(292)5001。

●「くらしとこころの休日無料相談会」 仙台弁護士会と法テラス宮城は9月、震災などによる借金や離婚、生活困窮、解雇、パワハラなどの問題や悩みについて、弁護士や社会保健福祉士、精神保健福祉士が対応する休日無料相談会を開く。

無料。当日の来場者も受け付けるが、事前予約者を優先する。時間はいずれも午前10時～午後4時。日程と開催場所、予約先は下記のとおり。

▷9月1日、法テラス南三陸050

## 備えの手紙 — 5年後のわたしへ、家族へ

2年前、東日本大震災がおきました。(停電で)テレビがみられなくてこまりました。ラジオをききました。ラジオをちゃんとじゅんびしていますか。

—宮城県丸森町・丸森小3年・池田翔君(8)

**募集** 東日本大震災の教訓を手紙に記し、5年後の自分や家族に送riませんか。応募時に開封の承諾を得た手紙の一部は随時、紙面で紹介します。手紙は封書で受け付けます。封筒の裏面に郵便番号、住所、氏名、電話番号(携帯含む)、開封の可否を書いて〒980-8660河北新報社販売部「備えの手紙」係へ。

(3383)0210▷8日、法テラス東松島050(3383)0009▷15日、法テラス山元050(3383)0213▷28日、石巻市保健相談センター050(3383)0009。

●傾聴ボランティア養成講座 講座は3日間。仙台会場は仙台市シルバーセンターで9月1、8、15日、岩沼会場は岩沼市総合福祉センターで9月13、20、24日。いずれも午前10時～午後3時。仙台傾聴の会主催。

話を聴く時の心構えやコツを学ぶほか、聴き方の練習を行う。全課程の修了者には、修了証を発行する。申し込みが必要で、受講料は3日間で5000円。筆記用具、昼食を持参する。連絡先は仙台傾聴の会090(6253)5640。

●「大切な人を亡くした方のわかちあいの会」 仙台グリーンケア研究会は9月8、14、21の3日間、

宮城県内を巡回し、震災などで家族らを亡くした人を対象に悲しみを語り合う「わかちあいの会」を開く。午後2時～4時半で、日程と場所は次の通り。

▽8日、石巻市・カリタスジャパン石巻ベース▽14日、岩沼市・岩沼市民会館▽21日、仙台市・仙台市シルバーセンター 無料。予約不要。託児希望者は事前連絡が必要。連絡先は同会事務局070(5548)2186。

## 募集

●復興応援川柳募集 宮城県共同募金会は、震災の被災地や被災者が元気になるような川柳を募集している。

復旧・復興に関連することや、ボランティアに取り組む中での発見、失敗談、感動体験などを題材にした作品が対象で、自作の未発表作品に限る。

被災者も交えた審査・選考委員会で、最優秀作品1点を選ぶ。応募作品を基に、復興応援かるたを作製する予定。

郵送、ファクス、電子メールで応募する。いずれも(1)氏名(2)性別(3)年齢(4)住所(5)電話番号(6)メールアドレス(7)職業(8)ペンネームを明記する。会のホームページからも応募できる。締め切りは30日(当日消印有効)。

送り先は〒984-0051仙台市若林区新寺1丁目4の28。電子メール post@akaihane-miyagi.or.jp。ファクス022(292)5002。連絡先は宮城県共同募金会022(292)5001。

●学習サポートボランティア募集 仙台市のNPO法人アスイクは、低所得世帯の中学生を対象に実施する放課後学習サポート事業で、



「チームともす東北」が制作、販売しているキャンドル



中井教授(左)に目録を手渡す佐藤さん

菜の花プロジェクトし、売り上げの一部を津波に遭った農地にロケットに寄付する活動を進めている。仙台市青葉区の東北大学院農学研究所で贈呈式が行われ、チームのスタッフ佐藤浩幸さんが、菜の花プロジェクトのリーダーを務める農学研究所の中井裕教授に目録を手渡した。佐藤さんは農地の再生に協力できれば

うれしい」と話し、中井教授は「活動を後押ししてもらいありがたい。幅広く活用したい」と述べた。チームは仙台の有志企業が集まり、震災1年後の昨年3月11日に発足した。キャンドルの制作と販売のほか、毎月11日に放送されるエフエム仙台のラジオ番組「ともすradio」にも関わっている。

キャンドルは、チームが毎月11日に青葉区の仙台三越前で開催している祈りのイベント「プレイ」で販売している。価格は税込100円。復興協力に感謝 神戸訪れ伝える 石巻市長



石巻市長は市の復興計画を説明、半島部など震災後に過疎がさらに進んだ地域で「人が戻ってくるための政策が必要だ」と話した。被災者公営住宅 たなこみくりを課

# 仙台の有志企業グループ制作 菜種キャンドルともす縁

## 売り上げ 一部寄贈 大学院生の活動支援

東日本大震災の復興支援に向けて仙台市内の有志企業で活動する「チームともす東北」は27日、津波で被災した農地の再生に取り組む東北大学院農学研究所の「菜の花プロジェクト」に、支援の一環で制作したキャンドルの売り上げから19万円余りを寄付した。

## 被災者いま



東松島市月浜地区の住民有志でつくる月浜海水浴場実行委員会の事務局長を務入はあり、ほつとめています。ことは震災す。浜ににぎわい後初めて、7月に海開きをしました。周辺の復旧工事などへの影響を考慮し、営業は日曜日に限定しました。



## 心休まる月浜目指す

小野勝見さん(64) 東松島市宮宮・民宿経営

最終日の25日まで、6日間で計6410人が来場しました。天候の影響で想定 ホテルで調理補助をやや下回りましたが、運いており、そこで営経費を支払うだけの収めました。ホテルに



## 河北新報 震災アーカイブから

▷撮影日 2011年3月11日  
▷撮影地 東松島市矢本河戸  
▷撮影者 後藤新喜



宮城、福島県内の主な放射線量(28日)

気仙沼